

し ょ う わ つ う し ん

Show-a 通信

2011.12
第5号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています。

医療法人彰和会の「彰和 (Showa)」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。

麻酔科医の仕事

術中・術後の痛みを抑えることができる
硬膜外麻酔を最大限に活用しています

麻酔科 青井 賢一郎 部長

腹腔鏡による大腸手術

現在、日本では麻酔科医の不足により、麻酔科のない病院が少なくありませんが、当院では常勤する麻酔科医が、手術を受ける患者さんの身体状態を診察し、リスクの把握、手術中の出血や心拍数に応じた処置、術後のフォローといった大変重要な役割を担っています。2010年度の当院での麻酔科管理全身麻酔件数は634例。執刀医と麻酔科医が連携し、高度化する手術をより安全に円滑に行っています。

麻酔科医の仕事

術中・術後の痛みを 抑えることが出来る 硬膜外麻酔を 最大限に活用しています

手術を受ける患者さんの身体の変化を監視し、必要に応じて点滴や麻酔薬を調整しながら「患者さんにとって一番安全な状態」を守っているのが、「麻酔科医」です。当院では常勤の麻酔科医が、手術の進行を管理しています。

安全で円滑な手術を 受けていただくために

消化器科領域の外科手術に欠かせない麻酔は、患者さんの不快な記憶と痛みの感覚をなくす一方で、心臓の働きや呼吸を抑制する作用があります。

手術中の患者さんの血圧や心電図などを見ながら適切な麻酔の深さを保って投薬や輸液、輸血などを行い、安全に手術を受けられるように全身管理を行う必要があります。

当院では、患者さんの負担をできるだけ軽減する「硬膜外麻

酔」を取り入れ、手術室のコンダクターと呼ばれる麻酔科医が手術の進行を管理しています。

術前準備

患者さんの プロフィールを確認

検査結果や病歴、年齢や性別、生活習慣などから患者さんの身体状態を把握し、一人ひとりの患者さんに最も適切な麻酔計画を立てます。また、職業や家族関係からどんな不安を抱えているかを理解します。

術前診察

手術前日に患者さんを 診察・診断

麻酔科医は手術前日に患者さんや体質、現在の体調をうかがうだけでなく、手術を受ける疾患の状態や手術の進行・手法などを分かりやすく説明します。また、手術中や手術後早期に起きやすい合併症「術後肺炎・無気肺」を予防するため、当院独自の深呼吸法「20秒かけて深呼吸」を指導します。この方法

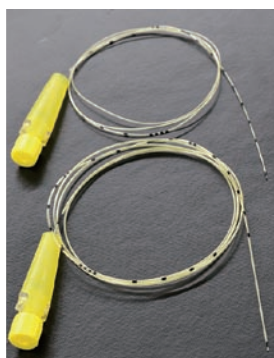
手術室

硬膜外麻酔を活用し 患者さんの負担軽減

患者さんは、不安を軽減してくれる麻酔前投薬を病室で内服したのち、手術室に入ります。当院では、患者さんが眠った後に、硬膜外麻酔用の細かいカテーテルを背中に挿入するので、緊張や痛みを感じるこ



硬膜外カテーテル（上が女性用・下が男性用）。体内に入る軟らかいチューブは直径1mm以下で、注射針よりも細い



高齢の患者さんでも「痰出し」ができる 20秒かけて深呼吸 当院オリジナル

- 1 ゆっくりと15秒かけて、静かに音をさせずに息を吸います
- 2 残り5秒で、首の筋肉に力を入れて吸い込む音をさせながら、さらに息を吸います
- 3 痰があればそれが動いて刺激となり、咳とともに口から飛び出します

血圧や体温、心拍数、呼吸の状態などを測定・記録するため、麻酔科医が患者さんに測定器を装着します

手術麻酔の主な流れ

術前



患者さんの身体の状態を把握し麻酔計画を立て術前診断を行います

手術室



硬膜外麻酔用のカテーテルは患者さんが眠ってから挿入するので痛みはありません

手術室



麻酔科医は手術中の患者さんの様子を確認しながら、手術の進行を管理します

ICU



ICUカンファレンスには麻酔科医と外科医グループ、看護師が参加。患者さんの経過を確認し、その後の治療方針を検討します

ICU



手術翌日の患者さんを診察し、全身状態の確認と痛みのケアを行います

**患者さんに笑顔で手術室へ来ていただき
笑顔で病室へ戻っていただくことを目指しています**

なく麻酔を受けることができません。硬膜外カテーテルはそのまま留置し、手術後も持続的に局所麻酔薬を使って鎮痛を行います。硬膜外麻酔の最大のメリットは、手術中だけでなく、手術後も痛みや血圧をコントロールできる点です。

当院では、硬膜外麻酔（神経に作用）を主体としながら、必要に応じて全身麻酔（脳に作用）を併用し、身体に一番負担の少ない状態を維持しながら、手術中と手術後の痛みを抑えます。

脂質異常、糖尿病等の生活習慣病やその他の合併症などを抱えている患者さんの状態とリスクを的確に把握しながら、「安全で円滑な手術の進行」を管理しています。

手術が終わり、麻酔薬の投与を終えると、患者さんは覚醒します。「手術が終わりましたよ。はい、20秒かけて深呼吸しましょう」と声をかけ、気管にたまった痰を出し、術後肺炎を予防しています。

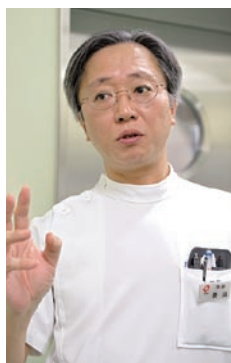
全身状態を監視し 手術の進行を管理

手術後は 集中的に治療看護

ICU

麻酔科 青井 賢一郎 部長

1959年札幌市生まれ
1985年 3月 北海道大学医学部医学科卒業
1985年 4月 北海道大学医学部付属病院第一内科勤務
1992年 10月 北海道大学医学部付属病院麻酔科勤務
1995年 4月 北海道大学医学部付属病院集中治療部助手
1998年 4月 手稲溪仁会病院麻酔科・ICU勤務
2004年 4月 三会北斗循環器病院麻酔科・ICU勤務
2006年 7月 北海道消化器科病院麻酔科勤務
※出向先病院など省略



7/15 北海道医師会認定生涯教育講座
第2回 内視鏡治療講演会

◆特別講演

「大腸ESDとDBEの最新の話題」

演者：自治医科大学付属病院
光学医療センター 教授 山本博徳先生



◆症例発表

「当院における胃ESDの後出血例の検討」

演者：北海道消化器科病院
消化器内科 加藤貴司医長



医療技術を向上させるため、職員
全員がつねに学び続けています

10/13

第7回
HGH 研究発表会

院内各部署が研究した
成果を発表（11演題）



10/14 北海道医師会認定生涯教育講座
肝炎治療 UP-TO-DATE

◆特別講演「B型・C型肝炎の治療」～最近の話題～

演者：埼玉医科大学 消化器内科・肝臓内科 教授 持田智先生

その他の院内研修会・勉強会

■8月2日 院内感染研修会

器具の洗浄と環境整備について

■10月18日 医薬品の安全使用のための院内勉強会

血液製剤・血漿分画製剤の取り扱いについて

■11月1日 医療機器安全研修会

AEDの基本的な使い方～みんなで触ってみよう

部門紹介

栄養科

治療をサポートする
食生活の改善を
患者さんとともに

主任 浅黄志津（管理栄養士）
スタッフ/管理栄養士2人、栄養士1人、
調理師2人、調理員7人



消化器疾患を抱えている患者さんは
高齢の方が多く、生活習慣病を併発し
ているケースも少なくないため、食生
活の改善が治療に欠かせません。また、
胃腸を手術した後は、胃腸をいたわり
栄養を効率よく摂る食事法を学ぶ必要
があります。

栄養科では、一人ひとりの入院患者
さんの栄養計画を
立て、病状や栄養
状態に合わせた入
院食を提供してい
ますので、患者さ



保温保冷配膳車に入れて
病棟へ



衛生管理には十分に注意を
払っています



食品サンプルを使って栄養
指導する浅黄主任

「長年の食習慣」を変えるのは簡単
ではありませんが、飲酒・喫
煙、コーヒーやお菓子などの
嗜好品を過剰に摂りすぎている
場合はコントロールが必要
です。また、テレビ番組で推
奨する健康法やダイエット法
の中には、栄養バランスを欠
くものがあるので注意を呼び
かけています。

栄養科では、一人ひとり
の患者さんのライフスタイル
を考慮しながら、栄養指導を
行っています。食生活の偏り
や悪い食習慣を改善すること
で、今まで服用していた糖尿
病や脂質異常症の薬が不要に
なることもあることから、「患
者さんとともに取り組む食生
活改善」に力を入れています。

ん自身が目で見て、食べて、「健康を
手に入れるための食材や量、味付け」
を覚えることができます。浅黄主任は
「外食料理と比べると随分と薄味に感
じるかもしれませんが、塩分や油脂を
控えた食事や味付けを習慣にすること
が大切です」と話しています。

温かい料理や冷たい料理をそのまま
召し上がっていたために保温保冷
配膳車を活用したり、お雛さまやクリ
スマスを楽しむ行事食を取り入れたり
しています。



医療法人 彰和会
北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、消化器外科、外科、肛門外科、
放射線科、麻酔科、病理診断科

□設立：1988年2月20日

□住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号

□電話：011-784-1811 □FAX：011-784-1838

□ホームページ：http://www.hgh.or.jp/

□病床数：211床